

岐阜市テークアウト店サイト

メニュー別検索可能

リニューアル 利用者の声も反映

新型コロナウイルスの感染拡大で苦境に立つ飲食店を支援しようと、岐阜商工会議所などは、テークアウト事業を手掛ける市内の店舗を紹介するウェブサイト「ウチ店いいね！」(hit ps://www.uchi-imis e.com/)をリニューアルした。会員制交流サイト(SNS)を使って利用者の反応を表示する新機能が加わり、サイトの発信力強化を狙う。

サイトは同商工会議所と岐阜市、柳津町商工会との連携事業として、昨春にできた。コロナ禍が長引くにつれ、店内飲食からテークアウトに切り替える飲食店

が相次ぎ、登録店舗数は約150店舗に達した。

リニューアルでは、SNSで「#ウチ店」などを付



リニューアルされたサイト。検索方法が増え、利便性も向上した

け、飲食店の利用者が投稿した画像が表示される特設ページを設けた。SNSとのリンクで利用者の声が反映され、同サイトのPRにつながる試み。利便性の面では従来の地域別だけでなく、メニュー別に検索できるようにになった。

同商工会議所では、新たな登録店を受け付けている。森健二専務理事は「リニューアルを機に利用者の満足度を高めながら、登録店数も増やしていき、地域の飲食店を守る好循環をつくっていきたい」と話した。(富樫一平)

「ウチ店」掲載108店に

岐阜商議所のテークアウトサイト

岐阜商工会議所と柳津町商工会、岐阜市が連携して運営する、テークアウトできる市内の店舗を紹介するウェブサイト「ウチ店」の掲載数が108店になり、

30日までに100店を超えた。新型コロナウイルスの感染拡大に伴って20日に始めたサイトで、テークアウトに活路を見いだす店舗をPRしてサポートする。

同市西園町の割烹さし野は開設初日から参加する。



「ウチ店」に掲載されている店舗の弁当を食べる行員たち＝岐阜市神田町、十六銀行柳ヶ瀬支店

店主の岸野克彦さん(61)は「参加前は先行きが不安だったが、参加することで当面しのげるくらいにはなった」と話す。

一方、利用者側では、同市神田町の十六銀行柳ヶ瀬支店が開設初日から積極的に活用。週に一度は弁当のデリバリーを頼んでいるほか、各行員が店舗に買いにいくようにしている。「購入することで地域の役に立てれば」と吉村文孝岐阜第二ブロック長兼柳ヶ瀬支店長(53)は話す。

同行では5月7日から市内の全支店でサイトのチラシを配る予定。(鈴木隆宏)

岐阜商議所も支援

市、柳津町商工会と連携

テークアウト事業

岐阜商工会議所は、岐阜市や柳津町商工会と連携し、新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってテークアウト事業に取り組む飲食店の支援に乗り出した。テークアウトができる市内の店舗を対象にしたウェブサイト「ウチ店」を20日に開設し、サイト上で参加企業を募っている。市中部では、オフィスのランチ需要に対応し、弁当販売を始める飲食店が相次ぐ。外出自粛で飲食店の来店客が激減する中、テークアウトに活路を見いだす店舗をPRし、売り上げアップを支援する。



サイトは、同会議所と市がそれぞれ構想を進めており、今月上旬から一本化した支援サイトの設置を進めてきた。地図上やカテゴリなどからテークアウト可能な店舗を検索でき、立ち上げ時は27店舗の情報を紹介している。

外出自粛の影響で各飲食店はテークアウトの取り組みを進めている。岐阜市市田町の同会議所内にある岐

阜ブランドホテル直営レストラン「オリビエ」は、昼食用の日替わり弁当(700円)に加え、子ども向けの弁当(500円)を始めた。同市神田町のピザ店「DACHIU(ダ・アチユ)」は、1.5キロ圏内のデリバリーにも対応する。柳ヶ瀬商店街で和菓子や飲食店を展開するツバメやは、飲食店2店舗のコラボ弁当を販売している。調理場は1カ所に集約し、出勤する社員を減らすなど業務の効率化を図る。岡田とや加社長は「手探りの状態だが、意外に注文はある」と

話す。

居酒屋が並ぶ岐阜市玉宮地区では、飲食店らが連携して配達する動きもある。同市羽根町の飲食店「おせん」など同地区3店舗は今月から2キロ以内のデリバリー事業を共同で始めた。「タ

マミヤ・イツ」を名付け、参加店を募っている。関係者は20日、同会議所で会を開き、「ウチ店」をPR。同会議所の森健二専務理事は「岐阜からテークアウトの文化を発信したい」と話した。